

第 57 回 高知県献血推進協議会

資 料

高知県の血液事業の概要について

高知県の本年度1月末現在の献血者数は前年同期の110.9%、また、献血量は113.0%となっている。全国に先がけ少子高齢化が進行している本県においては、今後、献血をお願いできる人口がますます減少していくことが想定されるため、これからの献血を担っていただく若い世代の方々を中心に、広く県民の皆様に献血への一層のご理解とご協力をいただく必要性が増している。

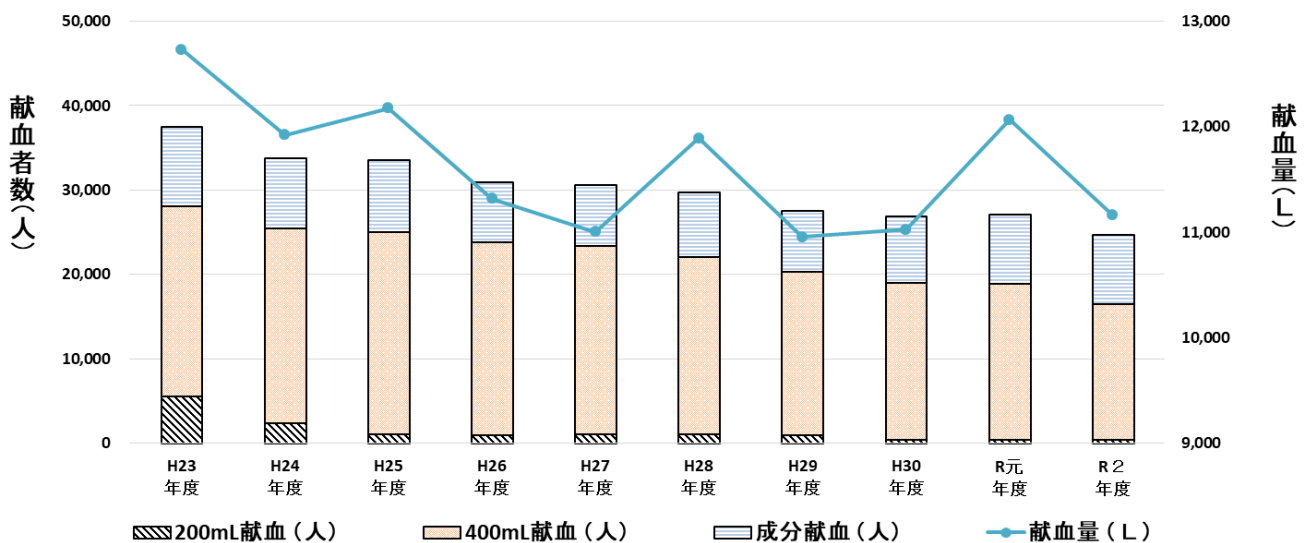
I 献血の状況

1. 年度別献血状況

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度 4月～1月	R2年度 推計	R2年度 目標
200mL献血（人）	5,592	2,428	1,082	1,026	1,069	1,146	991	458	404	418	502	420
400mL献血（人）	22,491	23,046	23,952	22,869	22,308	20,904	19,394	18,632	18,542	16,130	19,356	18,954
成分献血（人）	9,434	8,371	8,558	7,088	7,278	7,657	7,137	7,842	8,203	8,141	9,769	9,847
計（人）	37,517	33,845	33,592	30,983	30,655	29,707	27,522	26,932	27,149	24,689	29,627	29,221
献血量（L）	12,730	11,920	12,173	11,318	11,003	11,891	10,954	11,022	12,065	11,159	13,391	12,952

（R2年度推計は4月～1月分の実績から単純計算した推計値）

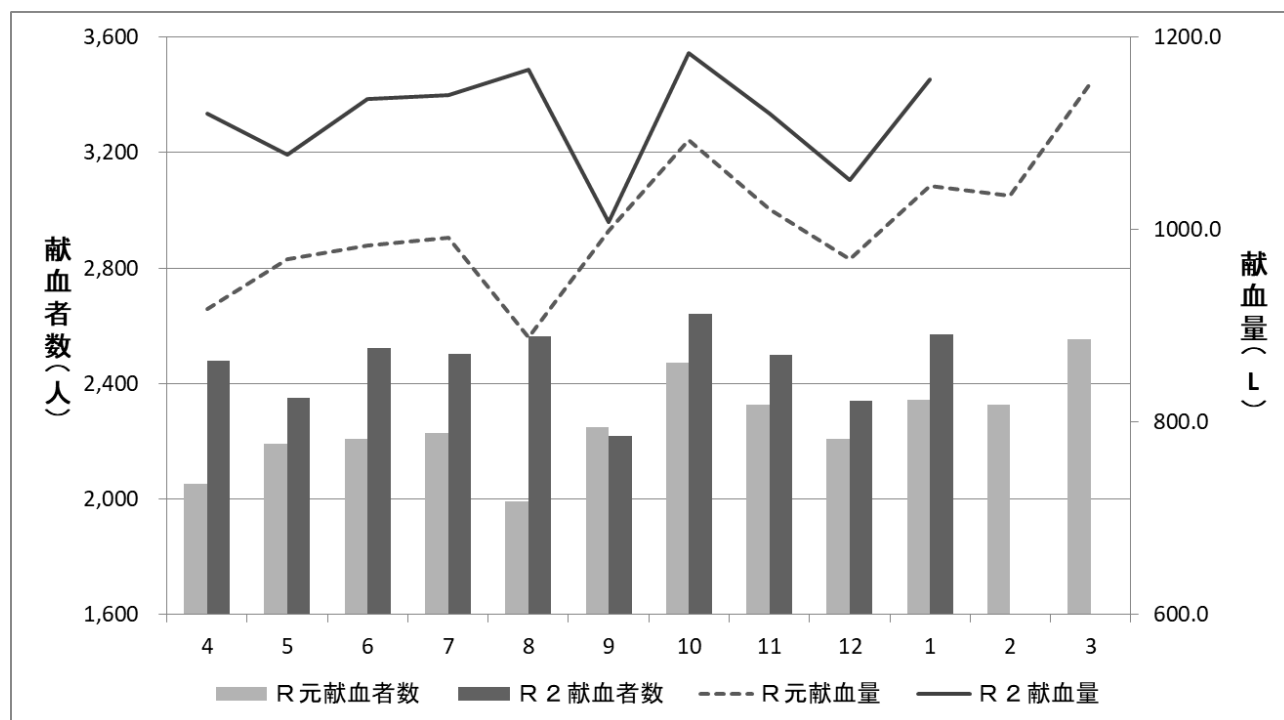
・県内の献血者数と献血量（グラフ）



2. 月別献血者数

月	令和2年度				令和元年度 献血者数 (人)	対前年度比		令和2年度 献血量(L)	令和元年度 献血量(L)	対前年度比	
	200ml 献血(人)	400ml 献血(人)	成分献血 (人)	献血者数 (人)		人数	割合			献血量 (L)	割合
4	48	1,585	845	2,478	2,054	424	120.6%	1120.3	917.8	202.5	122.1%
5	35	1,414	901	2,350	2,190	160	107.3%	1077.4	969.1	108.3	111.2%
6	39	1,678	805	2,522	2,207	315	114.3%	1135.9	983.2	152.7	115.5%
7	51	1,565	887	2,503	2,227	276	112.4%	1139.3	991.6	147.7	114.9%
8	49	1,653	862	2,564	1,993	571	128.7%	1166.4	888.4	278.0	131.3%
9	32	1,450	738	2,220	2,248	△ 28	98.8%	1008.1	998.6	9.5	101.0%
10	44	1,796	801	2,641	2,472	169	106.8%	1183.9	1092.7	91.2	108.3%
11	38	1,721	740	2,499	2,328	171	107.3%	1120.6	1020.6	100.0	109.8%
12	38	1,547	755	2,340	2,208	132	106.0%	1051.3	969.5	81.8	108.4%
1	44	1,721	807	2,572	2,343	229	109.8%	1155.6	1045.1	110.5	110.6%
2					2,326				1035.2		
3					2,553				1152.9		
合計	418	16,130	8,141	24,689	27,149	2,419	110.9%	11,158.8	12,065	1,282.2	113.0%

・令和2年度（4月～1月）及び令和元年度の月別献血者数及び献血量（グラフ）



3. 年齢別献血状況

【年齢別献血者数】

・令和2年度（令和2年4月～令和3年1月）

（単位：人）

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計
200mL献血	29	154	4	78	1	31	6	60	2	53	42	376	418
400mL献血	343	216	1,655	809	1,981	869	3,063	1,356	4,092	1,746	11,134	4,996	16,130
血しょう成分献血	51	53	366	479	552	552	1,175	671	1,960	638	4,104	2,393	6,497
血小板成分献血	12	1	135	12	272	48	571	63	523	7	1,513	131	1,644
合計	435	424	2,160	1,378	2,806	1,500	4,815	2,150	6,577	2,444	16,793	7,896	24,689

・令和元年度（平成31年4月～令和2年1月）

（単位：人）

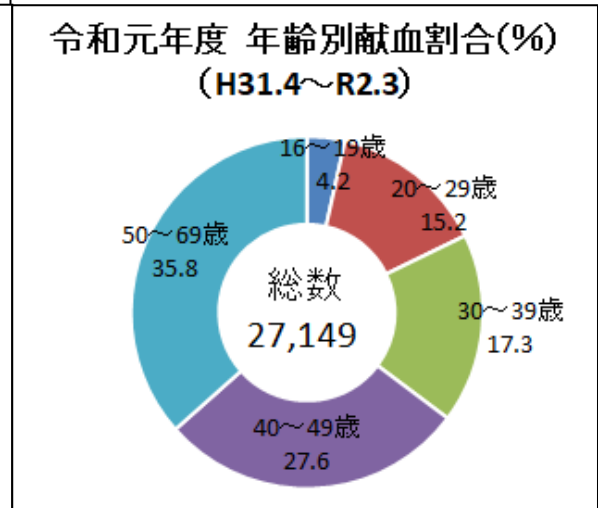
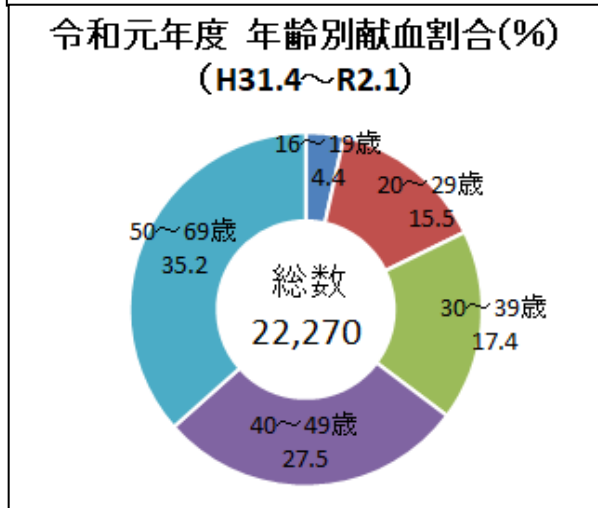
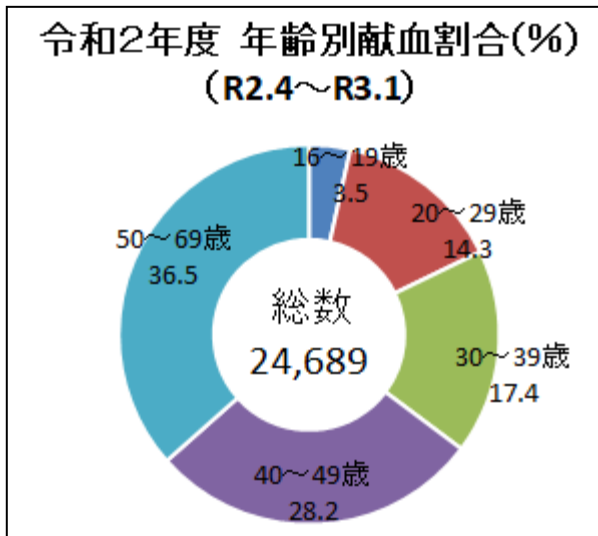
	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計
200mL献血	10	116	6	54	3	28	2	44	2	51	23	293	316
400mL献血	496	250	1,838	699	1,987	654	3,013	1,120	3,751	1,513	11,085	4,236	15,321
血しょう成分献血	31	64	284	402	513	382	853	413	1,289	463	2,970	1,724	4,694
血小板成分献血	8	3	125	53	245	62	564	108	723	48	1,665	274	1,939
合計	545	433	2,253	1,208	2,748	1,126	4,432	1,685	5,765	2,075	15,743	6,527	22,270

・令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）

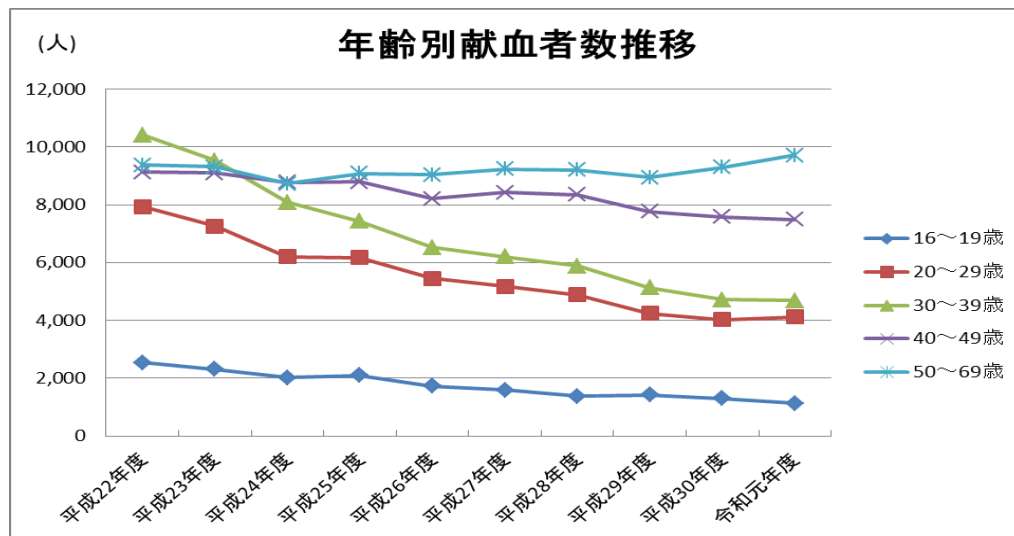
（単位：人）

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計
200mL献血	15	144	7	74	3	38	4	53	2	64	31	373	404
400mL献血	551	276	2,135	849	2,363	810	3,645	1,403	4,611	1,899	13,305	5,237	18,542
血しょう成分献血	43	91	335	520	637	471	1,066	534	1,676	584	3,757	2,200	5,957
血小板成分献血	12	3	148	57	291	71	657	124	833	50	1,941	305	2,246
合計	621	514	2,625	1,500	3,294	1,390	5,372	2,114	7,122	2,597	19,034	8,115	27,149

【年齢別献血者割合】

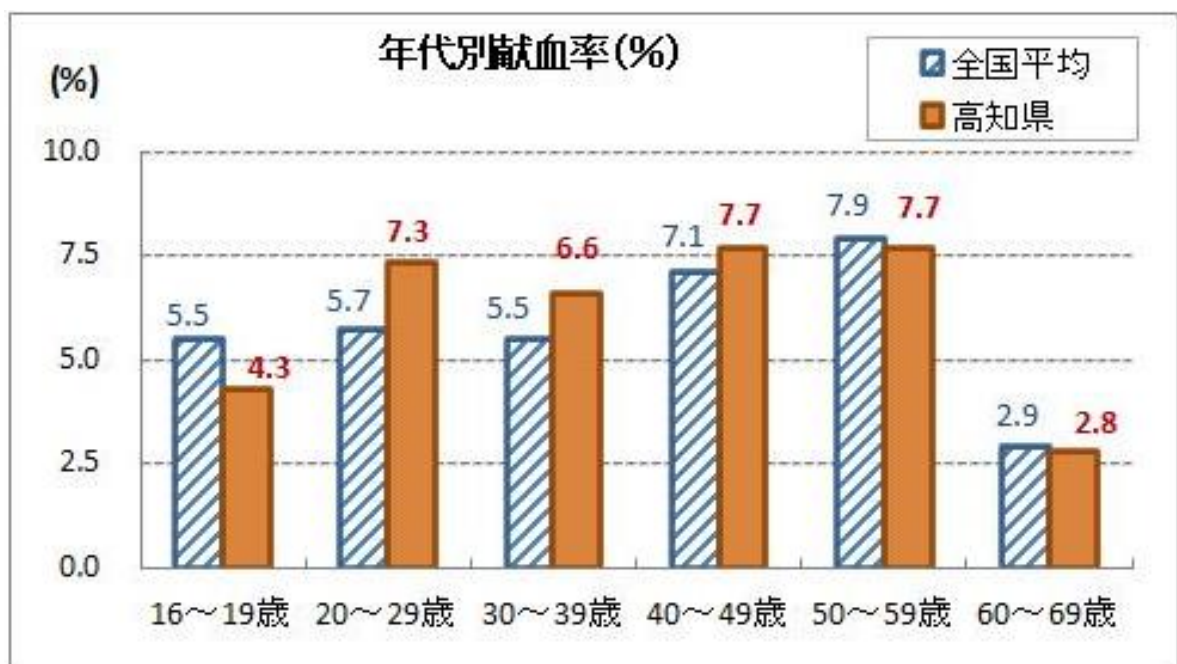


【年齢別献血者数推移 (平成22年度~令和元年度)】



【年齢別献血率（献血者数／献血対象年齢人口）】

	令和元年度	
	全国(%)	県内(%)
16～19歳	5.5	4.3
20～29歳	5.7	7.3
30～39歳	5.5	6.6
40～49歳	7.1	7.7
50～59歳	7.9	7.7
60～69歳	2.9	2.8



出展：日本赤十字社「令和元年度血液事業年度報」

4. 献血種別、場所別献血状況

・令和2年度（令和2年4月～令和3年1月）

	献血ルーム				献血バス				合計			
	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)
200mL	42	376	418	3.3	0	0	0	0.0	42	376	418	1.7
400mL	2,778	1,318	4,096	32.4	8,356	3,678	12,034	100.0	11,134	4,996	16,130	65.3
血しょう	4,104	2,393	6,497	51.3	0	0	0	0.0	4,104	2,393	6,497	26.3
血小板	1,513	131	1,644	13.0	0	0	0	0.0	1,513	131	1,644	6.7
計	8,437	4,218	12,655	100.0	8,356	3,678	12,034	100.0	16,793	7,896	24,689	100.0
男女別	66.7%	33.3%	100.0%		69.4%	30.6%	100.0%		68.0%	32.0%	100.0%	
構成比	34.2%	17.1%	51.3%		33.8%	14.9%	48.7%		68.0%	32.0%	100.0%	
延日数	301日平均 42.0人				276日平均 43.6人				577日平均 42.8人			

・令和元年度（平成31年4月～令和2年1月）

	献血ルーム				献血バス				合計			
	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)
200mL	23	293	316	3.1	0	0	0	0.0	23	293	316	1.4
400mL	2,282	987	3,269	32.0	8,803	3,249	12,052	100.0	11,085	4,236	15,321	68.8
血しょう	2,970	1,724	4,694	45.9	0	0	0	0.0	2,970	1,724	4,694	21.1
血小板	1,665	274	1,939	19.0	0	0	0	0.0	1,665	274	1,939	8.7
計	6,940	3,278	10,218	100.0	8,803	3,249	12,052	100.0	15,743	6,527	22,270	100.0
男女別	67.9%	32.1%	100.0%		73.0%	27.0%	100.0%		70.7%	29.3%	100.0%	
構成比	31.2%	14.7%	45.9%		39.5%	14.6%	54.1%		70.7%	29.3%	100.0%	
延日数	300日平均 34.1人				280日平均 43.0人				580日平均 38.4人			

・令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）

	献血ルーム				献血バス				合計			
	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)	男(人)	女(人)	計(人)	構成比(%)
200mL	31	373	404	3.2	0	0	0	0.0	31	373	404	1.5
400mL	2,793	1,250	4,043	32.0	10,512	3,987	14,499	100.0	13,305	5,237	18,542	68.3
血しょう	3,757	2,200	5,957	47.1	0	0	0	0.0	3,757	2,200	5,957	21.9
血小板	1,941	305	2,246	17.8	0	0	0	0.0	1,941	305	2,246	8.3
計	8,522	4,128	12,650	100.0	10,512	3,987	14,499	100.0	19,034	8,115	27,149	100.0
男女別	67.4%	32.6%	100.0%		72.5%	27.5%	100.0%		70.1%	29.9%	100.0%	
構成比	31.4%	15.2%	46.6%		38.7%	14.7%	53.4%		70.1%	29.9%	100.0%	
延日数	360日平均 35.1人				338日平均 42.9人				698日平均 38.9人			

5. 献血不適格者の状況

・令和2年度（令和2年4月～令和3年1月）

区分	受付者数	献血ができなかった人数						献血者数		
		比重不足		その他		計		構成比(%)	構成比(%)	
		構成比(%)		構成比(%)		構成比(%)				
男	200mL献血	44	0	0.0	2	4.5	2	4.5	42	95.5
	400mL献血	11,687	123	1.1	430	3.7	553	4.7	11,134	95.3
	血しょう成分献血	4,208	25	0.6	79	1.9	104	2.5	4,104	97.5
	血小板成分献血	1,576	13	0.8	50	3.2	63	4.0	1,513	96.0
	計	17,515	161	0.9	561	3.2	722	4.1	16,793	95.9
女	200mL献血	451	36	8.0	39	8.6	75	16.6	376	83.4
	400mL献血	6,046	738	12.2	312	5.2	1,050	17.4	4,996	82.6
	血しょう成分献血	2,548	82	3.2	73	2.9	155	6.1	2,393	93.9
	血小板成分献血	139	4	2.9	4	2.9	8	5.8	131	94.2
	計	9,184	860	9.4	428	4.7	1,288	14.0	7,896	86.0
合計	200mL献血	495	36	7.3	41	8.3	77	15.6	418	84.4
	400mL献血	17,733	861	4.9	742	4.2	1,603	9.0	16,130	91.0
	血しょう成分献血	6,756	107	1.6	152	2.2	259	3.8	6,497	96.2
	血小板成分献血	1,715	17	1.0	54	3.1	71	4.1	1,644	95.9
	計	26,699	1,021	3.8	989	3.7	2,010	7.5	24,689	92.5

・令和元年度（平成31年4月～令和2年1月）

区分	受付者数	献血ができなかった人数						献血者数		
		比重不足		その他		計		構成比(%)	構成比(%)	
		構成比(%)		構成比(%)		構成比(%)				
男	200mL献血	25	0	0.0	2	8.0	2	8.0	23	92.0
	400mL献血	11,746	192	1.6	469	4.0	661	5.6	11,085	94.4
	血しょう成分献血	3,062	35	1.1	57	1.9	92	3.0	2,970	97.0
	血小板成分献血	1,720	31	1.8	34	2.0	65	3.8	1,665	96.8
	計	16,553	258	1.6	562	3.4	820	5.0	15,743	95.1
女	200mL献血	367	38	10.4	36	9.8	74	20.2	293	79.8
	400mL献血	5,866	1,303	22.2	327	5.6	1,630	27.8	4,236	72.2
	血しょう成分献血	1,866	68	3.6	74	4.0	142	7.6	1,724	92.4
	血小板成分献血	300	17	5.7	9	3.0	26	8.7	274	91.3
	計	8,399	1,426	17.0	446	5.3	1,872	22.3	6,527	77.7
合計	200mL献血	392	38	9.7	38	9.7	76	19.4	316	80.6
	400mL献血	17,612	1,495	8.5	796	4.5	2,291	13.0	15,321	87.0
	血しょう成分献血	4,928	103	2.1	131	2.7	234	4.7	4,694	95.3
	血小板成分献血	2,020	48	2.4	43	2.1	91	4.5	1,939	96.0
	計	24,952	1,684	6.7	1,008	4.0	2,692	10.8	22,270	89.3

・令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）

区分	受付者数	献血ができなかった人数						献血者数		
		比重不足		その他		計		構成比(%)	構成比(%)	
		構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)			
男	200mL献血	33	0	0.0	2	6.1	2	6.1	31	93.9
	400mL献血	14,074	227	1.6	542	3.9	769	5.5	13,305	94.5
	血しょう成分献血	3,872	36	0.9	79	2.0	115	3.0	3,757	97.0
	血小板成分献血	2,007	34	1.7	42	2.1	76	3.8	1,941	96.7
	計	19,986	297	1.5	665	3.3	962	4.8	19,034	95.2
女	200mL献血	464	45	9.7	46	9.9	91	19.6	373	80.4
	400mL献血	7,202	1,565	21.7	400	5.6	1,965	27.3	5,237	72.7
	血しょう成分献血	2,379	86	3.6	93	3.9	179	7.5	2,200	92.5
	血小板成分献血	334	19	5.7	10	3.0	29	8.7	305	91.3
	計	10,379	1,715	16.5	549	5.3	2,264	21.8	8,115	78.2
合計	200mL献血	497	45	9.1	48	9.7	93	18.7	404	81.3
	400mL献血	21,276	1,792	8.4	942	4.4	2,734	12.9	18,542	87.1
	血しょう成分献血	6,251	122	2.0	172	2.8	294	4.7	5,957	95.3
	血小板成分献血	2,341	53	2.3	52	2.2	105	4.5	2,246	95.9
	計	30,365	2,012	6.6	1,214	4.0	3,226	10.6	27,149	89.4

II 献血推進への取組み（令和2年度）

令和2年度血液事業の概要

1. 広報活動

献血の重要性、必要性について広く県民の皆様にご理解とご協力をいただくために、市町村や高知県赤十字血液センター（以下、血液センター）など関係団体との連携により、各種キャンペーンの開催や広報誌、ポスター、チラシの配布、また、各報道機関の活用等により、献血に関する知識の普及と啓発に努めている。

<作成資材・配布ポスター紹介>

①献血呼びかけポケットティッシュ

街頭での啓発活動時や献血協力者に対して配布。



②400mL 献血への協力呼びかけポスター（A3）

けんけつちゃんの土佐犬バージョンを掲載したポスターを作成し、血液センターを通して献血受入れ施設へ配布。



③「献血バスがやってきます」お知らせ用チラシ（A4）

けんけつちゃんとその仲間たちのイラスト等が印刷されており、献血場所や時間等が記入できるもの。血液センターを通して献血バス受入れ施設へ配布。



④血液事業の現状 令和2年度

令和元年度実績や血液事業の沿革などを記載。



⑤「愛の血液助け合い運動」キャンペーンうちわ

イベントや献血バスにて配布。



2. 「愛の血液助け合い運動」月間（7月1日から7月31日）

(1) 関係資料



「愛の血液助け合い運動」キャンペーンポスター
(厚生労働省作成ポスター)

【配布先】各市町村、福祉保健所、各県税事務所、各土木事務所、各警察署、各私立高校、高知市教育委員会、県教育委員会（公立高校への掲示依頼）など

(2) 第56回献血運動推進全国大会

・日程、場所：令和2年6月24日（水） 北海道（札幌市民ホール）
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

・内容：大会（式典）は中止となったが、献血推進運動に積極的に協力し、功労のあった団体等に厚生労働大臣から表彰状及び感謝状が贈られた。
なお、高知県では以下の団体及び個人が表彰状、感謝状を受賞。

厚生労働大臣表彰状： 医療法人新松田会愛宕病院

厚生労働大臣感謝状： 四国銀行事務センター、大和ハウス工業株式会社高知支店

(3) 愛の血液助け合い運動月間献血キャンペーン

・「サマキャン2020」
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

(4) 令和2年度献血功労者表彰式

・日程、場所：令和2年9月16日（水） 高知県庁2階 第一応接室
・内容：第56回献血運動推進全国大会における厚生労働大臣表彰状及び感謝状（上記(2)のとおり）の伝達贈呈、並びに献血の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した以下の団体に対し、高知県知事感謝状の表彰を行った。

高知県知事感謝状： 新高知重工株式会社
エム・セテック株式会社高知工場

3. はたちの献血キャンペーン（1月1日～2月28日）

(1) 関係資料



「はたちの献血」キャンペーンポスター
(厚生労働省作成ポスター)

【配布先】各市町村、各福祉保健所、各県税事務所、各土木事務所、各警察署、各私立高校、高知市教育委員会、県教育委員会（公立高校への掲示依頼）、県内各大学・専門学校など

(2) はたちの献血イベント

- 「はたちの献血イベント」
- ・日程、場所：令和3年1月11日（月・祝） イオンモール高知
 - ・内容：献血絵本等啓発資料の配布及び広報資料の設置
献血イメージキャラクター等身大パネル展示
献血セミナーの活動報告等啓発ポスター展示
献血クイズラリーの実施
液晶ビジョンでの献血PR動画の放送

4. その他キャンペーン

- ・春の献血キャンペーン：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
- ・サマーキャンペーン：令和2年7月31日（金）
- ・クリスマスキャンペーン：令和2年12月24日（木）
- ・バレンタインキャンペーン：令和3年2月6日（土）、7日（日）、11日（木）、14日（日）
※2月11日（木）のみ高知県学生献血クロスクラブが参加し、街頭呼びかけ活動を実施

Ⅲ 血液製剤の適正使用について

1. 高知県合同輸血療法委員会の開催

県内医療機関の血液製剤の使用状況を分析・評価し、情報を共有することにより、血液製剤の適正使用の推進を図るため「高知県合同輸血療法委員会」を開催。

- ・日程、場所：令和2年9月7日（月） 高知県庁1F 正庁ホール
- ・協議事項：輸血後感染症検査について
廃棄血・血液製剤の使用状況について
血液製剤の院内備蓄量について
高知県における血液製剤使用実態等について

第57回 高知県献血推進協議会資料（資料2）

血液事業の現状

令和 3年 3月22日(月)

高知県赤十字血液センター

本日の内容

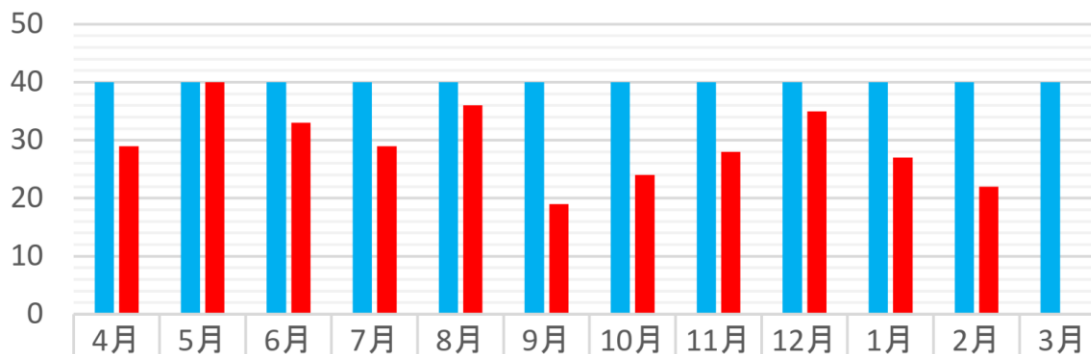
- **令和2年度 供給・献血実績報告
(4月～2月)**
- **令和3年度 献血目標量**
- **令和3年度 採血計画**

令和2年度 供給計画

種別	規格等	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	計	
赤血球	1単位(本)	48	6	1,300	1,450	500	72	14	72	480	3,942	
	2単位(本)	13,926	12,897	49,050	70,925	39,550	19,414	25,393	35,364	19,660	286,179	
	計	本数	13,974	12,903	50,350	72,375	40,050	19,486	25,407	35,436	20,140	290,121
		単位数	27,900	25,800	99,400	143,300	79,600	38,900	50,800	70,800	39,800	576,300
血漿	1単位(本)	4	58	720	208	40	0	2	0	28	1,060	
	2単位(本)	2,880	3,051	9,720	8,500	9,330	3,070	5,409	7,660	3,766	53,386	
	4単位(本)	84	460	2,960	4,448	1,250	690	995	1,020	1,785	13,692	
	計	本数	2,968	3,569	13,400	13,156	10,620	3,760	6,406	8,680	5,579	68,138
		単位数	6,100	8,000	32,000	35,000	23,700	8,900	14,800	19,400	14,700	162,600
血小板	1単位(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2単位(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5単位(本)	0	0	120	12	0	0	0	0	0	132	
	10単位(本)	4,180	4,670	12,800	33,072	8,190	5,500	5,538	7,110	5,270	86,330	
	15単位(本)	0	0	0	12	0	0	0	0	0	12	
	20単位(本)	0	0	0	12	0	0	1	0	0	13	
	計	本数	4,180	4,670	12,920	33,108	8,190	5,500	5,539	7,110	5,270	86,487
		単位数	41,800	46,700	128,600	331,200	81,900	55,000	55,400	71,100	52,700	864,400
合計	本数	21,122	21,142	76,670	118,639	58,860	28,746	37,352	51,226	30,989	444,746	
	単位数	75,800	80,500	260,000	509,500	185,200	102,800	121,000	161,300	107,200	1,603,300	

- ・ 令和2年度の中四国ブロックにおける供給計画は「444,746本（1,603,300単位）」で計画
- ・ 令和元年度計画と比較して「7,178本（23,300単位）」の減少

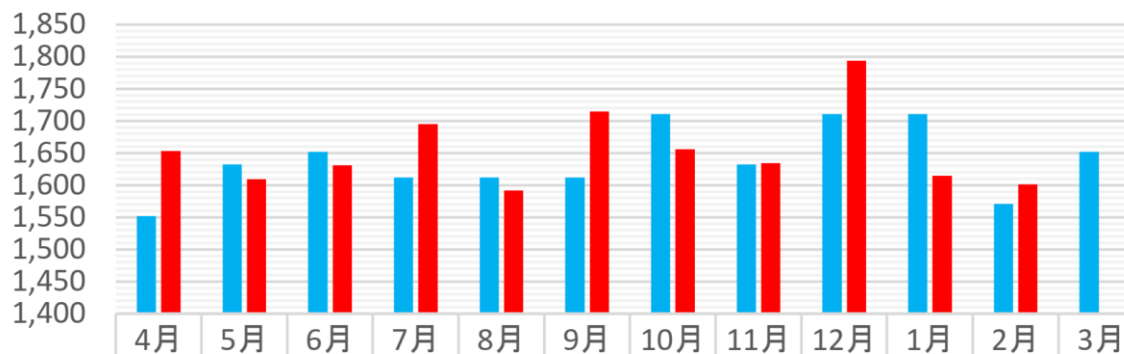
200mL赤血球製剤(本)



計画比(4月～2月): 73. 2%

当初計画を下回る供給状況にありますが医療機関への安定供給は維持されております。

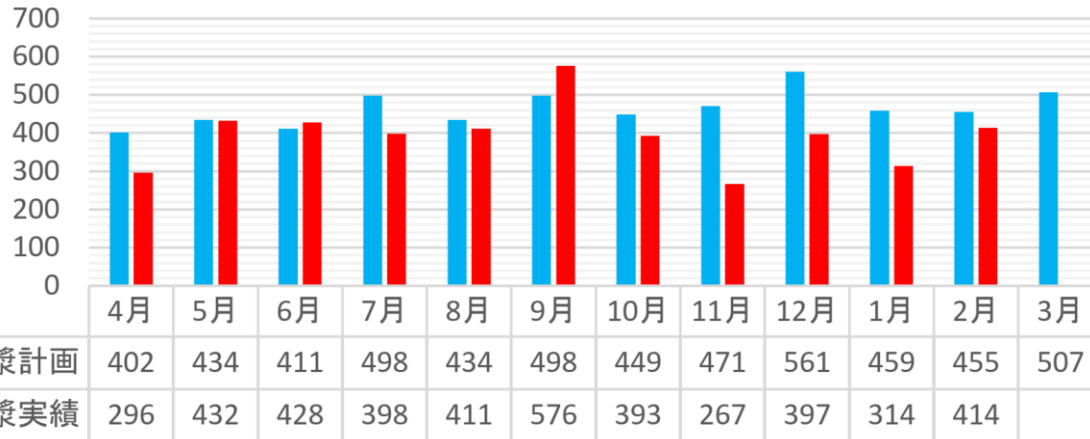
400mL赤血球製剤(本)



計画比(4月～2月): 101. 0%

月々の供給実績に、ばらつきはありますが、ほぼ当初計画どおりの供給状況にあります。

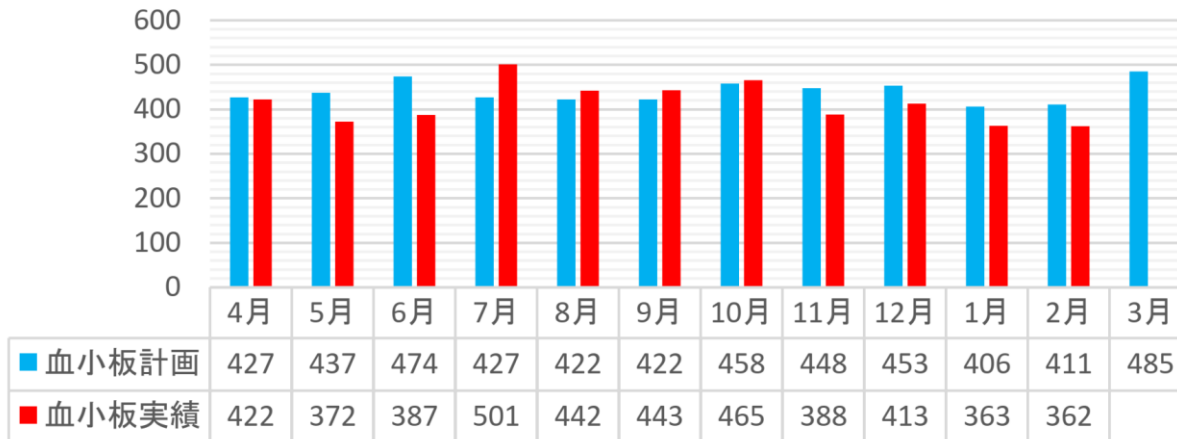
血漿製剤(本)



計画比(4月～2月): 85.3%

当初計画を下回る供給状況にあります。これは、医療機関における腹腔鏡手術や新薬による医療技術の進歩によるものと推測されます。

血小板製剤(本)



計画比(4月～2月): 95.3%

当初計画を下回る供給状況にあります。これは、医療機関における腹腔鏡手術や新薬による医療技術の進歩によるものと推測されます。

令和2年度 採血計画

〔本数換算〕

採血種別		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	計	
全血	200mL	60	15	1,429	1,503	487	74	46	46	420	4,080	
	400mL	15,281	13,228	52,873	73,701	40,489	20,257	26,968	37,037	18,954	298,788	
	計	15,341	13,243	54,302	75,204	40,976	20,331	27,014	37,083	19,374	302,868	
成分	血小板	分割	1,644	1,981	6,024	13,861	2,021	1,839	2,147	2,727	1,391	33,635
		非分割	426	1,395	4,240	10,678	1,423	1,294	1,512	1,920	785	23,673
		計	2,070	3,376	10,264	24,539	3,444	3,133	3,659	4,647	2,176	57,308
	血漿	製品	0	0	1,351	11,119	0	0	0	1,690	0	14,160
		原料	5,418	4,625	15,761	15,235	5,554	5,486	7,417	9,800	7,671	76,967
		計	5,418	4,625	17,112	26,354	5,554	5,486	7,417	11,490	7,671	91,127
	計	7,488	8,001	27,376	50,893	8,998	8,619	11,076	16,137	9,847	148,435	
合計	22,829	21,244	81,678	126,097	49,974	28,950	38,090	53,220	29,221	451,303		

- ・ 令和2年度の中四国ブロックにおける献血者確保数は「451,303人」で計画
- ・ 令和元年度計画と比較して「15,408人」の増加

令和2年度 施設別稼働計画

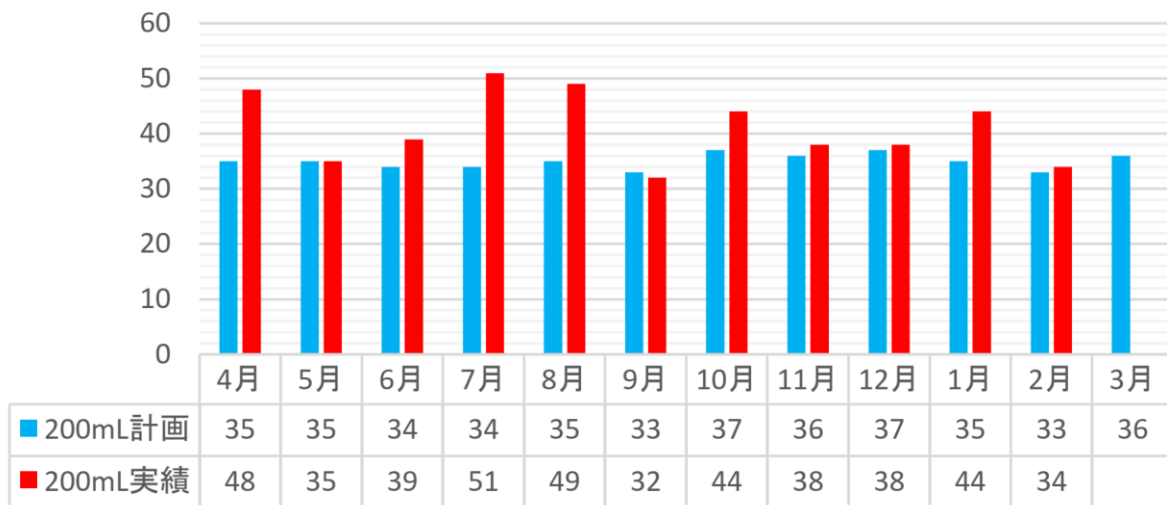
移動採血バス	346 台
献血ルーム	360 日



移動献血バス配車計画



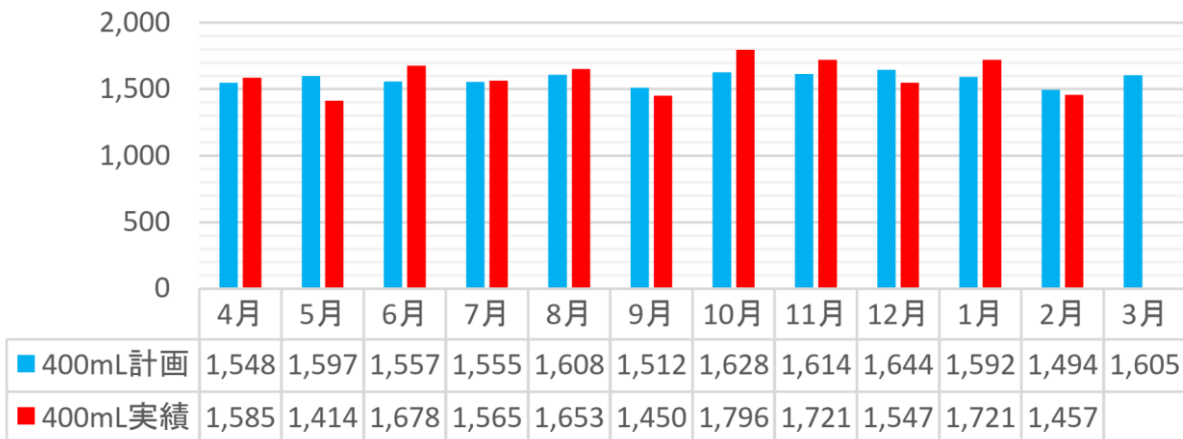
200mL献血(人)



計画比(4月～2月): 111.9%

当初計画を上回る献血状況にあります。医療機関への安定供給は維持されております。

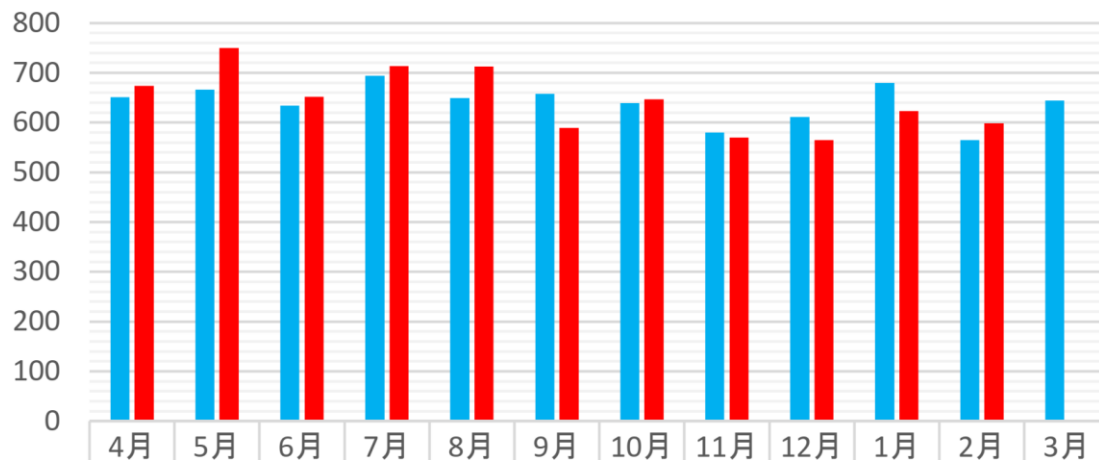
400mL献血(人)



計画比(4月～2月): 101.4%

ほぼ当初計画どおりの献血状況にあります。医療機関への安定供給は維持されております。

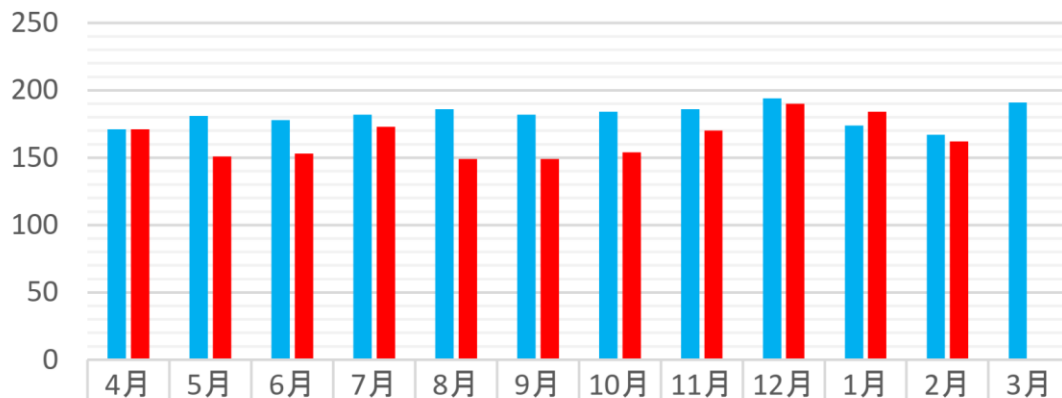
血漿献血(人)



計画比(4月～2月): 101.0%

ほぼ当初計画どおりの献血状況にあります。昨年度から血漿分画製剤用血漿確保のため採血強化が継続されております。

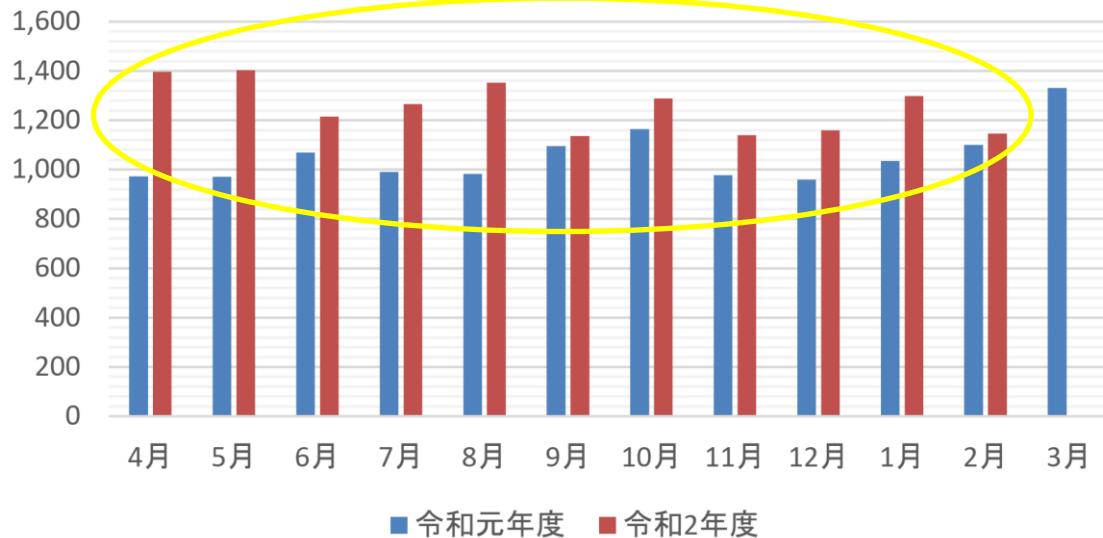
血小板献血(人)



計画比(4月～2月): 91.0%

当初計画を下回る献血状況にありますが、中四国ブロック血液センターの管理下でコントロールされており、医療機関への安定供給は維持されております。

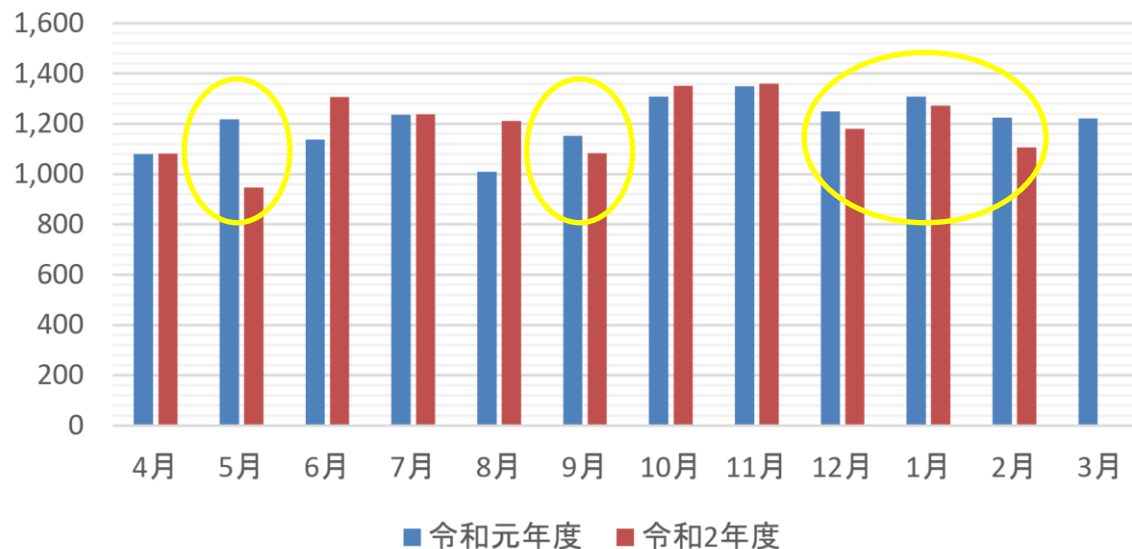
献血ルーム献血者数(人)



計画比(4月～2月): 121.9%

当初計画を大幅に上回る献血状況にあります。コロナ禍中でも、献血の必要性について県民の方々に、ご理解して頂けているものと推測される。

献血バス献血者数(人)



計画比(4月～2月): 99.0%

ほぼ当初計画どおりの献血状況にありますが、5月は新型コロナの影響による企業・団体の献血協力への自粛、9月は台風10号の影響による中止、12月～2月は、冬期及び新型コロナの影響による献血者減少となっております。

県内献血による自給率(200mL・400mL・血小板)

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
200mL供給	29	40	33	29	36	19	24	28	35	27	22		322
200mL献血	48	35	39	51	49	32	44	38	38	44	34		452
献血/供給	165.5	87.5	118.2	175.9	136.1	168.4	183.3	135.7	108.6	163.0	154.5	#DIV/0!	140.4
400mL供給	1,653	1,609	1,631	1,695	1,592	1,715	1,656	1,634	1,794	1,615	1,601		18,195
400mL献血	1,585	1,414	1,678	1,565	1,653	1,450	1,796	1,721	1,547	1,721	1,457		17,587
献血/供給	95.9	87.9	102.9	92.3	103.8	84.5	108.5	105.3	86.2	106.6	91.0	#DIV/0!	96.7
血小板供給	422	372	387	501	442	443	465	388	413	363	362		4,558
血小板献血	171	151	153	173	149	149	154	170	190	184	162		1,806
献血/供給	40.5	40.6	39.5	34.5	33.7	33.6	33.1	43.8	46.0	50.7	44.8	#DIV/0!	39.6

200mL自給率: 140.4%

400mL自給率: 96.7%

血小板自給率: 39.6%

中四国ブロック血液センターにて、需要予測に沿った採血コントロールが行われ、過剰在庫による期限切れや需要の増加に伴う採血強化等、需要バランスを計りながら取り組み、安定供給されています。

県内献血による自給率(血漿)

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
血漿供給	296	432	428	398	411	576	393	267	397	314	414		4,326
200mL由来	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0		5
400mL由来	146	287	250	216	230	262	215	152	228	197	269		2,452
成分由来	150	145	176	181	181	314	178	115	169	115	145		1,869
血漿献血	2,307	2,199	2,369	2,330	2,415	2,071	2,487	2,329	2,150	2,388	2,090		25,135
200mL献血	48	35	39	51	49	32	44	38	38	44	34		452
400mL献血	1,585	1,414	1,678	1,565	1,653	1,450	1,796	1,721	1,547	1,721	1,457		17,587
成分献血	674	750	652	714	713	589	647	570	565	623	599		7,096
献血/供給	779.4	509.0	553.5	585.4	587.6	359.5	632.8	872.3	541.6	760.5	504.8	#DIV/0!	581.0

血漿自給率: 581.0%

血漿は、200mL・400mL・成分献血それぞれの献血から採血されます。その内、医療機関で輸血用として使用されたものが供給本数として計上されています。その他の血漿は、血漿分画製剤用原料として使用されます。自給率が高率なのは、需要が増加している血漿分画製剤用原料を確保するために採血強化を行っているためです。

【出前講座】 … **学校からの実施要請が激減**

小学校（児童クラブ） 1校 39名（令和元年度：12校、861名）

中学校 2校 19名（令和元年度：2校、303名）

高等学校（私立） 1校 210名（令和元年度：1校、203名）

専門学校 1校 74名（令和元年度：なし）

一般（県職員新規採用者研修） 6回 155名（令和元年度：3回、149名）

【骨髄バンク事業】 … **ライオンズクラブによる登録会を自粛**

実施回数（献血併行型） 49回（令和元年度：98回）

登録者 78人（令和元年度：445人）

年 齡	目標人数	実 績	達成率	前年度実績	前年比
16歳～19歳	1,377	937	68.0%	1,040	90.1%
20歳～29歳	4,522	3,854	85.2%	3,780	102.0%
30歳～39歳	5,452	4,709	86.4%	4,278	110.1%

献血者数(4月～2月) : 26,941人

10代～30代献血者数 : 9,500人(構成比35.3%)

16歳～19歳の献血者数減少 ⇒ 学域(大学・専門学校等)への移動献血バス配車の減少

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課

輸血用血液製剤・血漿分画製剤

日本赤十字社血液事業本部

日本赤十字社
中四国ブロック血液センター

採血能力等を
踏まえた調整

各都道府県薬務主管課

・協議
・調整

高知県赤十字血液センター
(地域センター)

地域血液センター

献血者



400mL献血

200mL献血

成分献血



ブロック
血液
センター
(製造所)



血液の
検査・製造

地域血液センター



赤血球 製剤



血漿 製剤



血小板 製剤

原料血漿

122.3 万
リットル

医療機関



輸血医療の実施

国内製薬
メーカー



血漿分画製剤

◀ 令和3年度採血計画 ▶

- ◎ 令和2年度採血計画に基づく「センター別の採血割合」を用い、按分したものを採血数とする。
- ◎ 移動採血車台数や協力事業所の規模・数等を考慮し、**各センターの「採血能力」により計画を策定**

令和3年度 供給計画 (案) (中四国ブロック管内)

種別	規格等	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛	高知県	合計	
赤血球	1単位 (本)	48	12	1,200	1,216	290	80	36	48	480	3,410	
	2単位 (本)	13,642	12,794	48,900	69,310	39,111	20,154	26,324	35,216	19,732	285,183	
	計	本数	13,690	12,806	50,100	70,526	39,401	20,234	26,360	35,264	20,212	288,593
		単位数	27,332	25,600	99,000	139,836	78,512	40,388	52,684	70,480	39,944	573,776
血漿	1単位 (本)	4	60	600	154	5	2	4	48	29	906	
	2単位 (本)	3,220	3,189	9,830	7,310	7,975	2,868	5,105	6,666	3,539	49,702	
	4単位 (本)	84	348	2,510	4,000	880	693	900	1,080	1,573	12,068	
	計	本数	3,308	3,597	12,940	11,464	8,860	3,563	6,009	7,794	5,141	62,676
		単位数	6,780	7,830	30,300	30,774	19,475	8,510	13,814	17,700	13,399	148,582
血小板	1単位 (本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2単位 (本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5単位 (本)	0	0	128	35	0	0	2	0	0	165	
	10単位 (本)	3,981	4,190	12,536	29,213	8,195	5,661	5,721	7,626	5,092	82,215	
	15単位 (本)	0	0	0	12	0	0	1	0	0	13	
	20単位 (本)	0	0	0	12	0	2	1	0	0	15	
	計	本数	3,981	4,190	12,664	29,272	8,195	5,663	5,725	7,626	5,092	82,408
		単位数	39,810	41,900	126,000	292,725	81,950	56,650	57,255	76,260	50,920	823,470
合計	本数	20,979	20,593	75,704	111,262	56,456	29,460	38,094	50,684	30,445	433,677	
	単位数	73,922	75,330	255,300	463,335	179,937	105,548	123,753	164,440	104,263	1,545,828	

- ・ 令和3年度の中四国ブロックにおける供給計画は「433,677本 (1,545,828単位)」で計画
- ・ 令和2年度計画と比較して「11,069本 (57,472単位)」の減少

令和3年度 採血計画（案）（中四国ブロック管内）

〔本数換算〕

採血種別		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛	高知県	合計	
全血	200mL	52	15	1,225	1,288	416	63	40	38	360	3,497	
	400mL	15,148	13,068	52,570	73,360	40,393	20,196	26,730	36,828	18,711	297,004	
	計	15,200	13,083	53,795	74,648	40,809	20,259	26,770	36,866	19,071	300,501	
成分	血小板	分割	1,472	1,707	5,734	11,396	2,209	1,369	1,713	3,112	1,510	30,222
		非分割	0	906	2,277	18,132	1,172	436	455	1,650	481	25,509
		計	1,472	2,613	8,011	29,528	3,381	1,805	2,168	4,762	1,991	55,731
	血漿	製品	0	0	1,875	9,401	0	0	0	1,143	0	12,419
		原料	4,808	5,786	17,444	10,247	6,157	6,330	8,373	9,500	7,801	76,446
		計	4,808	5,786	19,319	19,648	6,157	6,330	8,373	10,643	7,801	88,865
	計	6,280	8,399	27,330	49,176	9,538	8,135	10,541	15,405	9,792	144,596	
合計	21,480	21,482	81,125	123,824	50,347	28,394	37,311	52,271	28,863	445,097		

- ・ 令和3年度の中四国ブロックにおける献血者確保数は「445,097人」で計画
- ・ 令和R年度計画と比較して「6,202人」の減少

令和3年度 施設別稼働計画

移動採血バス	310 台
献血ルーム	360 日

移動献血バス配車計画



承認申請中

令和3年度 供給計画 と 採血計画 (案)

月別供給計画(赤血球・血漿・血小板)													(本)
供給	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
200mL	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
400mL	1638	1617	1617	1638	1658	1658	1638	1658	1737	1698	1537	1638	19732
血漿	375	400	383	454	400	454	412	437	510	419	435	462	5141
血小板	412	423	458	412	407	407	444	434	438	392	397	468	5092

* 血漿製剤には成分献血及び200mL・400mL献血から製造されたものが含まれる

月別採血計画(赤血球・血漿・血小板)													(人)
採血	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
200mL	31	31	31	31	32	27	31	30	31	29	26	30	360
400mL	1545	1560	1531	1570	1564	1496	1606	1585	1616	1572	1484	1582	18711
血漿	635	693	647	681	684	664	658	602	642	684	545	666	7801
血小板	162	166	163	166	165	164	166	168	173	167	162	169	1991

令和2年度計画との比較

供給計画（本）			
令和2年度		令和3年度	
200mL	480	480	—
400mL	19660	19732	72
血漿	5579	5141	▲438
血小板	5270	5092	▲178

採血計画（人）			
令和2年度		令和3年度	
200mL	420	360	▲60
400mL	18954	18711	▲243
血漿	7671	7801	130
血小板	2176	1991	▲185

- ・供給計画においては、200mL赤血球製剤が横ばい、400mL赤血球製剤が微増する計画、血漿製剤・血小板製剤は減少する計画
- ・採血計画においては、血漿分画製剤用の原料血漿の確保量が増加する計画、それ以外は、減少する計画

受入強化への取り組み

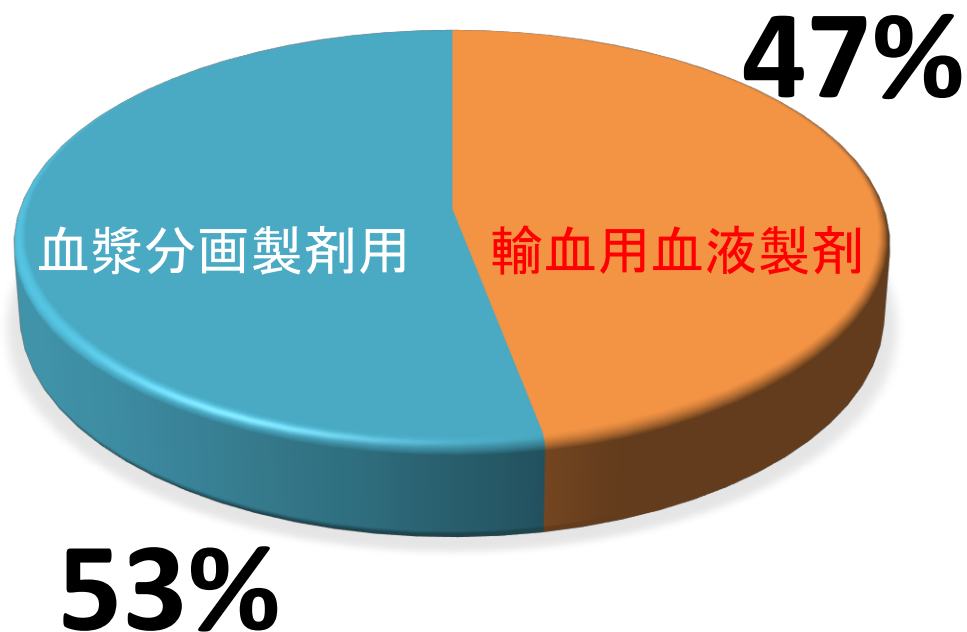
- ① 献血ルームにおける成分献血者の採血種類調整
- ② 献血ルームにおける400mL献血から成分献血（特に血漿）へのシフト
- ③ 移動献血車における400mL献血の推進と1稼働強化
- ④ 採血施設毎の役割分担と複数回献血の推進強化
- ⑤ その他

【参考】 令和3年度中四国ブロック原料血漿確保目標量(案)

ブロック	令和3年度確保目標量 (単位; リットル)			凝固原料比率	一般原料比率
	凝固因子用原料 (C区分)	一般原料 (N区分)	合計		
鳥取	0	6,324	6,324	0.00%	100.00%
島根	364	6,143	6,507	5.60%	94.40%
岡山	2,792	19,203	21,995	12.70%	87.30%
広島	9,177	14,785	23,962	38.30%	61.70%
山口	1,908	8,931	10,839	17.60%	82.40%
徳島	0	8,393	8,393	0.00%	100.00%
香川	722	9,522	10,244	7.00%	93.00%
愛媛	648	13,515	14,163	4.60%	95.40%
高知	0	8,908	8,908	0.00%	100.00%
合計	15,611	95,724	111,335	14.00%	86.00%
R2年度高知	0	8,856	8,856	0	100.00%
増減	0	52	52	0	0.00 p

原料血漿確保目標

中四国ブロック (中国四国9県) : 111,335 L (前年度から1,522L増)



令和3年度計画における献血者受け入れは、輸血用血液製剤の自給はもとより、近年、需要が増加傾向にある血漿分画製剤用原料血漿の確保が重要となります。

円グラフが示すとおり、ご協力いただいた**献血血液の53%**は、**血漿分画製剤原料**として国内製薬メーカー3社に送付されたのち、血漿分画製剤として医療機関に供給されます。

原料血漿確保量 122.3万リットル

(令和2年度から2.3万リットル増加)

■必要量が直近の4年で1.2倍に増加しています

血漿分画製剤は、一部を除き、献血血液の成分である血漿を原料としてのみ製造が可能です。近年免疫グロブリン製剤の必要量が、急激に増加しています。



～医療現場からのメッセージ～

千葉 厚郎先生
(杏林大学神経内科教授)

人の血液から作られる免疫グロブリン製剤は、神経系の病気の治療にとっても無くてはならないものとなっています。とくに、風邪や下痢の後に急激に手足の麻痺が生じるギラン・バレー症候群や、国の指定難病の一つである慢性炎症性脱髄性ニューロパチー・多巣性運動ニューロパチーでは、現在治療手段の中心となっています。

これらはいずれも免疫異常によって起こる末梢神経の病気で、手足の麻痺やしびれのために日々の生活を送ることが困難となりますが、免疫グロブリン製剤は、これらの障害の進行を抑え、症状の回復が促進します。免疫グロブリン投与が効果を発揮する仕組みについては、病気を起こしている自己抗体を中和する、あるいは異常状態に陥っている免疫系を調整することなどが考えられています。

ギラン・バレー症候群では呼吸をするための筋肉の麻痺や自律神経障害のために、場合によっては命に関わることもあります。早期の治療開始が必要であると共に、重症例では、追加の免疫グロブリン製剤投与も検討されています。また、慢性炎症性脱髄性ニューロパチー・多巣性運動ニューロパチーでは、治療により一旦症状が改善してもその後再び悪化を繰り返すという病気そのものの性質のために、免疫グロブリン製剤の繰り返しの投与が必要となることもしばしばです。最近では症状が悪化する前に定期的に免疫グロブリン製剤の投与を行う治療法“維持療法”も導入され、患者さんの生活の質が改善や長期的な身体機能の維持につながっています。

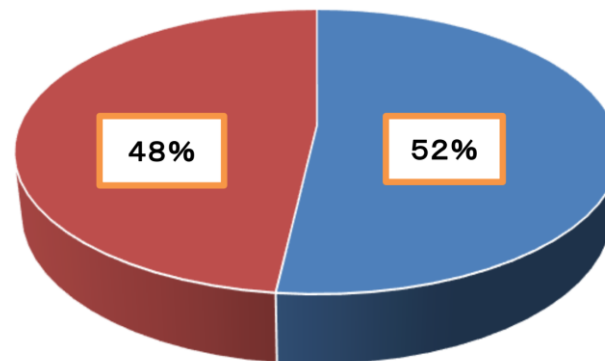
このように、神経の病気においてもより強力な免疫グロブリン療法に対する、医療現場からの期待・要望は高まっています。その点からも、日本国内での献血からしっかりと管理の下に作られる、安心・安全で良質な免疫グロブリン製剤が安定的に供給されることの重要性が増しています。

	令和2年度	令和3年度	対前年度比
供給数 (本)	30,989	30,445	▲544 (98.2%)
原料血漿確保量 (L)	8,856	8,908	52 (100.6%)
献血者数 (人)	29,221	28,863	▲358 (98.8%)
稼働 献血ルーム(日)	360	360	0
献血バス (台)	346	310	▲36 (89.6%)

献血ルーム

採血種別	採血計画(人)
200mL	360
400mL	4,800
血漿	7,801
血小板	1,991
合計	14,952

採血施設別割合

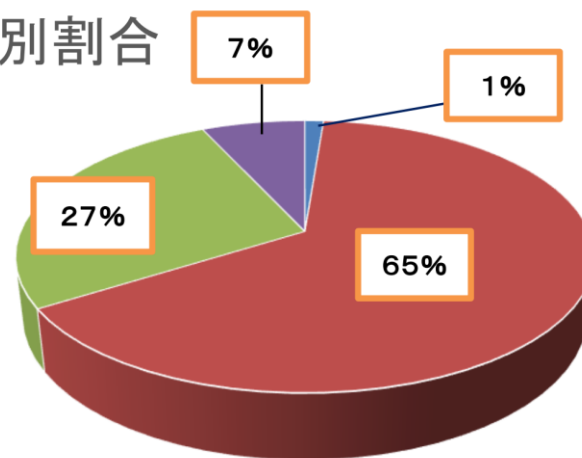


■ 献血ルーム ■ 移動献血バス

移動採血バス

採血種別	採血計画(人)
400mL	13,911

採血種類別割合



■ 200mL ■ 400mL ■ 血漿 ■ 血小板

献血会場における 新型コロナウイルス 感染対策について

ご入場時のお願い

マスク着用 <small>※マスクをお持ちでない方は職員へお申し出ください</small>	体温測定 <small>※発熱が確認された方は入場をご遠慮いただいています</small>	手洗い又は手指消毒

混雑・密集回避のためのお願い

事前予約 <small>※予約時間にお越しください。 (予約されていない場合にはスタッフにお声がけください)</small>	少人数でご来場 <small>※おしゃべりは控えめにお願いします</small>	十分に休憩した後は速やかな帰宅

職員と会場内の取り組み

職員のマスク着用・体温測定・手指消毒の徹底	換気と消毒清掃の徹底	手指消毒液の設置

新型コロナウイルス感染症対策として 以下に該当する方は

「献血」をご遠慮いただいております。

- ◆ 今までに新型コロナウイルス感染症と診断された、または新型コロナウイルス検査（PCR、抗原または抗体検査）で陽性になったことがある方
- ◆ 新型コロナウイルス感染症が疑われ、PCR または抗原検査を受けた結果は陰性だが、検体採取日から 4 週間以内の方
- ◆ 何らかの理由で新型コロナウイルス検査を受け、直近の結果が判明していない方
- ◆ 現在、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含む新型コロナウイルス感染症を疑う症状（※1）のある方
- ◆ 4週間以内に新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者とされた方（保健所からの連絡、もしくは COCOA による通知）（※2）
- ◆ 味覚・嗅覚の違和感を自覚する方
- ◆ 海外から帰国して「4週間以内」の方

※1 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など
 ※2 「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」の感染可能期間（発症 2 日前* から入院や自宅待機を開始するまでの間）に接触した方のうち、次の範囲に該当する方です。

- * 「無症状病原体保有者」の場合は、「検体採取 2 日前」とする。
- 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった方
 - 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた方
 - 患者（確定例）の気道分泌液若しくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い方
 - 手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と 15 分以上の接触があった方

（国立感染症研究所 「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領」（2020年5月29日暫定版）参照）

新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

当社では従来より、感染症対策を行っていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、さらに徹底した対策を行い、安全な献血会場の運営に取り組んでいます。

【職員の健康チェックを徹底しています。】

- ★ 日々の実施している健康チェックに加えて、出勤前・出勤時に体温測定を徹底しています。

【職員の手指消毒を徹底しています。】

- ★ 職員の出勤時、献血会場入退室時。
- ★ 献血受付時、問診時、献血カード更新時。
- ★ 看護師は献血者ごとに手袋を交換しています。

【献血会場の良好な衛生環境を保持しています。】

- ★ 献血会場にて使用する機材は日々、消毒液を用いて清掃しています。
- ★ 献血会場の入口で体温測定をするなど、良好な衛生環境に配慮した会場設営をしています。

《皆様へのお願い》

- ❖ 献血会場では入口に備えている消毒液にて手指消毒をお願いしています。
- ❖ 入口にて体温測定を実施しています。
(発熱が確認された方については献血会場への入場をご遠慮いただいています。)
- ❖ 必ず、マスクの着用をお願いしています。

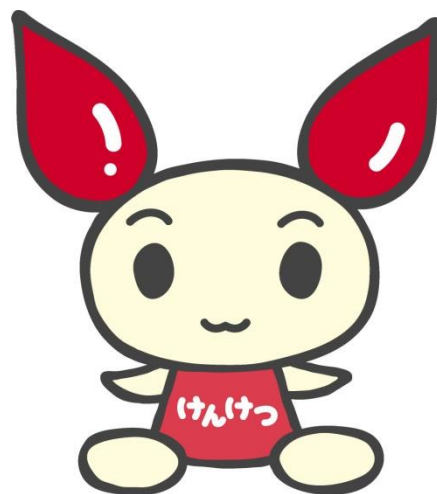
※介助者等付き添いの方もお願いします。

新型コロナウイルス感染の拡大下でも、
毎日約 13,000 人の方からの献血のご協力が必要です。
尊い命を救うために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

高知県赤十字血液センターは、広域事業運営体制のもと、中四国ブロック管内の1センターとして、課せられた役割を果たすとともに、県内の医療機関に安定的に血液製剤をお届けするよう、職員一丸となり献血推進に努めてまいります。



ご清聴ありがとうございました



献血キャラクター

けんけつちゃん